

## 環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	16	事例№	9	依頼者	豊山町生活福祉部住民課	実施場所	豊山町役場
実施対象	8名（小学生5名、保護者3名）						
実施日時	令和7年3月1日 9:00~10:00						
テーマ	身近なところから「SDGs」を捉える機会の創出を図る						

### ●依頼内容

環境学習事業として、町内在住の小学生以下の児童とその保護者を対象とし、ごみ処理・リサイクルや地球温暖化、自然などについて、実際にふれ、楽しみながら学んでもらい、環境について興味・関心をもってもらう機会を創出する。

### ●講師：堀井俊宏 氏（環境カウンセラー）

堀井俊宏氏は、元自治体職員で、過去に海部地域の広域行政において環境教育プログラム「あま広域環境学習プログラム“エコきっず調査隊”」を実行し、10年以上にわたって1市7町で開催していた。

### ●授業の内容

参加型 授業	<p>授業は、地球上の水や食料、ごみ等、様々な環境問題をテーマに、地球儀ビーチボールやペットボトル飲料、お菓子、発砲スチロール、地域の地図等を使いながら参加型で行われた。はじめに、地球儀ビーチボールを講師から順番に渡され、地球を見て気づいたことを自由に出し合った。その上で、ペットボトルに入った水が地球上にあるすべての水であるとしたら、私たちが飲める水はそのうちのどれくらいかを考えたり、90本のお菓子を食料に見立てて、貧しい国と豊かな国、戦争が起きている国の配分はどのようになっているかを考えたりした。次に、発砲スチロールをみんなで砕いて床にばらまいた後、ごみ拾いを体験し、ごみ収集のたいへんさやポイ捨て問題、マイクロプラスチック問題について考えた。つづいて、豊山町の地図を床に広げて参加者が日頃利用している施設や道を各自書き込んだ上で、ごみがよく捨てられている場所にごみの絵を描いた。さらに、参加者一人ひとりにごみ収集用のミニパッカー車（ミニカー）が配られ、地図上に描いたごみを収集しながら、豊山町の可燃ごみの処理を行っている北名古屋市のごみ処理施設まで運搬する作業を模擬的に体験した。最後に、講師から、参加者全員に豊山町のごみ袋が手渡され、ごみの減量や分別への協力が呼びかけられた。</p>	60分
-----------	--	-----

### ●授業の様子

授業は、地球儀ビーチボール、お菓子、ミニカーなど身近なものを使って行われ、大人も子どもも手や体を動かしたり、模擬的な体験をしたりするなど、楽しみながらさまざまな環境問題について学んでいた。地球上にある水のうち、私たちが飲むことのできる水の量の少なさや、国の違いによる貧富の差に子どもたちは驚いていた。また、地図づくりやミニカーを使ったごみの収集と運搬の模擬的な体験には夢中になって取り組んでいた。

地球上の水や食料など、限りある資源について考えた。



地図の上でごみの収集と運搬を模擬的に体験した。

